新聞スクラップブック「シニアこそ安全にスマホ」毎日新聞刊 2019 年 2 月 18 日刊を読む

60 代の高齢者も約半数が持ち、シニア世代にも広がるスマートフォン(スマホ)。普段の暮らしだけでなく、災害時や病気の時に役立つ可能性がある。セキュリティーにも注意して使いこなしたい。

パソコンより楽に

「シニアこそ、スマホが命綱になる」。そう話すのは、東京都世田谷区でシニアが教えるスマホ教室「すまほ茶屋」を開く山根明さん(84)。いまや公的な情報がホームページで提供され、施設利用ですらウェブ予約だ。高齢者がインターネットを使う必要性は高まっているが、パソコンを一から覚えるのはハードルが高い。

その点、スマホは家族や友達に言われ、連絡用に持っている場合が多い。足腰が弱っても人や情報とつながる手段になる。入院した友達に画像を送って元気づけたり、孫に動画を送ったり、コミュニケーションツールとしてさまざまな利用ができる。

自身もシニアになってからスマホを覚えた山根さんが教室でまず教えるのは、懐中電灯(ライト)機能と無料通信アプリ LINE、そしてアップルの「Siri」などの音声検索だという。忘れることを前提に、同じことを 10 回聞いても怒らない▷なんでも聞けるように同年配の講師が教える▷カタカナ用語はたとえ話で解説する―――と決めている。他人が教えた方がいいとも。

「息子には聞きにくい」と、教室に通う女性(74)は昨年、スマホからエントリーしてホノルルマラソンを走った。毎日のランニングもスマホの歩数計にデータを記録し、達成感があるという。「スマホで生活のレベルが上がった。若い人や孫の話が分かる。ない生活はもう考えられない」と楽しんでいる。

「怪しさ」学ぶ教材

ただ、インターネットには偽サイトや個人情報漏えいの心配もある。「怪しい〇〇に注意」とよく言われるが、どのような点に気をつければいいのだろう。「怪しさ」を見極める訓練のためのシニア向けカード教材を、情報セキュリティー企業のカスペルスキー(東京都千代田区)と静岡大学が共同開発した。

教材は、ネットの初心者が戸惑いがちな事例が書かれたカードを見て、「あやしい」「あやしくない」に分類するだけの簡単なもの。例えば、あるカードには「ねえ、こないだ撮った動画見て」というメッセージを見て、年配の男性が「あ、メッセージだ。娘かな？」とつぶやく場面が描かれている。別のカードには「地図アプリにこの端末の位置情報へのアクセスを許可しますか？」と表示された画面を見て、「なにかしら？」とつぶやく年配の女性。この二つの例は怪しいだろうか。分類したうえで、そう考えた理由を明確に説明できることが大切だ。家族や友達同士で、怪しいと

思ったポイントを説明しあうと理解が深まる。基本編と上級編がある。

ネット上のトラブルは、つい「自分は大丈夫」と思ってしまいがち。静岡大の塩田真吾准教授(情報教育)は「あやしいものと、あやしくないものを見極められるか、自分自身でチェックし、トラブルに遭うかもしれないと自覚できるよう工夫した」と説明する。

＜コメント＞

本日 2 月 18 日(月)の毎日新聞朝刊に、日頃からご指導をいただいている NPO 法人シニア SOHO 世田谷、東京タブレット研究会の山根明代表のご活躍が紹介されています。シニアの皆様に負けないように、スマホや PC の正しい使用方法を身に着けるよう、是非、塾生の皆様にもご紹介してあげてください。校舎にもコピーを掲示し、ご紹介ください。学習に、生活に、仕事に、世代を問わずスマホやタブレット、アイウォッチ、パソンコなどの ICT を自由自在に使いこなす時代がついにやってきました。

2019 年 2 月 18 日(月)林明夫